

第3学年国語科学習指導案

教科等	国語科	単元名	お気に入りの場所、 教えます	本時	全8時間扱いの6時間目
学級	3年2組	授業者		教室等	2階 3年2組教室

<本時の指導>

<本時のねらい> 自分の伝えたいことが聞き手に伝わるように話すことができる。	
<p>主な学習活動【4つの視点】 主な発問:T 予想される児童の反応:C</p> <p>1. 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。 T: 自分のお気に入りの〇〇を伝えるために、話し手にはどのようなポイントがありましたか。 C: 間合いを取る。 C: 言葉の抑揚、強弱、話すスピードなどがありました。 T: 前回に出た聞き手に伝わるように話すポイントを意識しながら発表の練習をしましょう。</p> <p>自分の伝えたいことが聞き手によくつたわるように話そう。</p>	<p>○研究主題にせまる6つの手立て</p> <p>□…指導上の留意点 ☆…評価 ※UD</p> <p>□前回見付けた話し手のポイントを想起させる。</p> <p>○活用場面の意図的・計画的な設定 前時の学習内容から、話し手のポイントを共有することで、自分の伝えたいことを意識し、振り返りの際に話し合い活動ができるようにする。 ※共有化</p>
<p>2. モデル動画を見て、対話の方法について知る。 T: 手本となる動画を見て、話し手と聞き手の役割を確認しましょう。</p> <p>3. 3人グループになり、めあてを意識しながら練習する。 【対話】 T: 自分でためあてを意識して話しましょう。 3人1組になり、練習を行います。 聞き手は、よかったところとアドバイスを話し手に伝えましょう。</p> <p>4. 1回目の発表練習を振り返り、2回目のめあてを立てる。 【表現】 T: 自分のめあてを意識して話せましたか。 T: 友達の話すときの工夫で真似したいことはありますか。 T: 1回目で友達が教えてくれたアドバイスをもとに2回目のめあてを決めましょう。</p> <p>5. 2回目の発表練習を行う。【対話】 T: 聞き手は、1回目と比べてよかったところとアドバイスを話し手に伝えましょう。</p>	<p>□話し手と聞き手の役割を確認してから行わせる。</p> <p>○対話モデルの共有 対話モデルの動画を共有することで、児童が話し合いの内容や話し方を前向きに相互評価し合えるようにする。 ※焦点化</p> <p>□1回目の振り返りをもとに、話し手のポイントを意識して取り組む。 □発表練習を聞いて、真似したいことを共有する。 ☆言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して聞き手に伝えたいことが伝わるように話すことができる。 (ワークシート・観察・発言)</p> <p>○話し合いの話題の提示 発表の練習後に交流する際は、話し手の発表の練習後に交流する際は、話題を提示し、前向きな交流活動を促す。</p>
<p>6. 本時の振り返りをし、次時の見直しをもつ。</p>	<p>□本時のめあてに沿って振り返る。</p>

【板書計画】

学校のお気に入りの場所、教えます

○自分の伝えたいことが聞き手によくつたわるように話そう。

○やること

- ① 三人グループになる。
- ② 1回目の練習を行う。
- ③ 1回目の練習をふりかえる。
- ④ 2回目のめあてを立てる。
- ⑤ 2回目の練習を行う。
- ⑥ 2回目の練習をふりかえる。

○話し手のポイント

強弱

・伝えたいところを強く

間の取り方

・自分の話し終わるまで

視線

・聞いてくれるほうを向く

身ぶり手ぶり

・自分の話し終わるまで

よくよう

・自分の話し終わるまで

相手の反応を見る

・相手の話し終わるまで

○振り返り

とたのかかまの
いどうきまよう
うてい
わたりし

かんまうけして、
ひりけう
いどうきま
いどうきま

せんんか
はなまうけして
いどうきま
いどうきま

【研究主題にせまる6つの手立てとの関連】

(1) 「自分の考えを言葉で表現する」ための手立て

話題設定の工夫

話題を学校の場所に限定することで聞き手も、共通した話題で対話を進められるようにする。また、発表のポイントを学習し、発表の前に意識するコツを伝えることで、聞き手が着目する点も明確になるようにする。

「対話」モデルの共有

本単元では、聞き手にとって分かりやすい話し方ができるということが大切である。そのため、どのような話し方がよいのか、学級全体で共有するようにする。良い例と悪い例については、発表のモデル動画を提示することで共有する。モデル動画では、今回の学習の中で大切にしていきたいと考える「抑揚」「強弱」「間の取り方」「視線」「相手の反応を見る」「身ぶり手ぶり」の項目を意識して、上手な発表のポイントを提示する。モデルの共有から良い発表の姿の共通理解をし、その後の発表の際に意識できるようにしたい。また、その基準を基に相互評価を行うことで、より聞き手にとって分かりやすい発表にしていきたい。

話し合いの話題の提示

発表の練習後に交流する際は、「友達の考えのよいところを伝えよう」「考えを付け足して、広げよう」「全員が話せるようにしよう」の話題を提示し、前向きな交流活動を促す。

(2) 「学び合う」ための手立て

交流の目的と視点の明確化

3～4人の小集団での話し合い場面を設定する。お気に入りの場所が違う人とグルーピングすることで、強弱を付けるポイントなどアドバイスをすることができるようにする。

活用場面の意図的・計画的な設定

前時の学習内容から、話し手のポイントを共有することで、自分の伝えたいことを意識し、振り返りの際に話し合い活動ができるようにする。